

国立研究開発法人科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」
活動報告

■概要（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）のホームページより抜粋）

さまざまな分野での女性の社会進出が期待されている中で、理工系分野での女性の活躍が世界的に見て少ないことが、わが国の課題となっています。女性の理工系研究者や技術者が少ないのは、中学校・高校における周囲の女子の進学動向、保護者や家族の考え、ロールモデルの不在など、女子中高生を取り巻く進路選択の環境が影響していると考えられます。

理工系分野の女性活躍を推進するためには、女子中高生が理工系分野で学んだ知識と実社会とのつながりを理解し、主体的に理系進路選択を考える機会を提供するとともに、保護者や教員が女子中高生の理系進路選択について理解を深め、これを後押しする環境を醸成していくことが必要です。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）では、女子中高生の理系進路選択支援プログラムを通して、実施機関・共同機関・連携機関で構成される持続可能な実施体制のもと、女子中高生の理系進路選択を支援する拠点づくりを推進しています。

■支援額

女子中高生の理系進路選択支援プログラムは、女子中高生の理工系分野に対する興味や関心を高め、理系進路へ進むことを志すためのさまざまな取り組みを支援します（1件当たりの支援額：上限600万円／年、支援期間：2年）。

■女子中高生の理系進路選択支援プログラム実施機関（令和5年度採択機関）

八戸工業大学、茨城大学、東邦大学、埼玉大学、お茶の水女子大学、岐阜大学、香川大学、高知工業高等専門学校、大分大学、宮崎大学

※大学など高等教育機関による採択が多く、科学館の採択が少ないのが現状です。

■徳島県立あすたむらんど子ども科学館での実施プログラム概要

プログラム名：明日に多くの夢がある場所づくり

とくしま・リケジョ・サイエンスプラットフォームの構築

実施機関：徳島県立あすたむらんど子ども科学館

共同機関：徳島大学、鳴門教育大学

連携機関：徳島県教育委員会、日亜化学工業株式会社、株式会社河野メリクロン

採択期間：令和4年度から令和5年度まで（2年間）

概要：学校訪問や実験体験、講演会を通じて、県内女子中高生に県内大学や地元企業の取り組みを知っていただくことで、県内大学への進学や地元企業への就職を選択肢の一つとして考えてもらうことを目的としています。また、科学館を中心に、県内大学や地元企業同士もパートナーとして科学普及活動を共同するプラットフォームを構築し、徳島の魅力を発信することで地方の課題解決に貢献していきます。

取組内容

①教員向け講演会

中高生の進路選択において、大きな影響力を及ぼす教員に対して、講演会を開催しました。内容は「データからみる日本の現状」をテーマに、統計データを用いながら日本における女性の理系進学者の少ない現状と、原因と考えられる「理系は男性」という固定概念について講演していただきました。

②学校訪問

県内中学校・高等学校を訪問し、県内大学・専門学校で活躍されている女性研究者や県内企業の女性社員を講師に、理系進路選択後のロールモデルを話していただき、現在の大学での研究内容や仕事内容を紹介していただきました。また、科学館の女性サイエンスコミュニケーターが身近な科学をテーマにサイエンスショーの演示も行いました。

③実験体験

科学館を会場に県内大学の女性研究者が講師となって、実験体験を4回実施しました。実験体験終了後にグループワークの時間を設け、TAで参加した女子学生が自分の理系進路選択のきっかけを参加者に紹介しました。また、実験体験参加者には「自分が目指す将来像」について考えてもらい、それを発表してもらいました。さらに、進路選択において、大きな影響力を及ぼす保護者に対して、別会場で進路選択における日本の現状や「理系は男性」という固定概念について紹介し、子どもがやりたいという道を応援できる環境の構築について説明しました。

■成果

「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」で求められる取り組みは、科学館が通常行っている事業にリンクするものが多く、既存事業を発展させて、本プログラムを構築することができ、科学館運営のノウハウを活かしてプログラムを実施することができました。また、大学ではなく、科学館が実施することで、中高生だけでなく、低年齢層やその家族に情報が届きやすく、本プログラムを広く周知することができました。また、助成金を用いることで、より質の高い科学教育体験の機会を創出することができ、普段科学館を利用しない中学生・高校生の科学館利用にもつながりました。